

# J R 総連通信

2018年10月5日 No.1288

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

## J R 北海道の路線維持問題で引き続き支援を要請！

### 交運労協第34回定期総会で発言！

10月4日、交運労協第34回定期総会が「連携・協働・前進 交運労協の総力を結集し、希望の持てる産業と魅力ある働き方を確立しよう！」をスローガンに都内の全日通 霞が関ビルで開催された。

定期総会は、議長団に全自交労連と運輸労連の代議員を選出し、住野議長の主催者挨拶の後、来賓として連合・逢見会長代行、厚労省と国交省からの挨拶に続いて、野党代表者がそれぞれ挨拶、政策推進議員懇の国会議員が紹介され、代表者が挨拶した。2019年度役員4役は変わらず、JR総連から副議長に榎本委員長、幹事に柳書記長を選出した。

質疑では、JR総連・八幡政策部長が発言し、JR北海道の事業範囲の見直しに関する報告とお礼を述べた。①2016年11月にJR北海道が公表した事業範囲の見直しの根本問題は、崩れた国鉄改革のスキームであり、その是正を求めて各方面に訴えてきたこと、②今年7月27日に国交大臣から出された2年間で総額400億円台の支援策は、交運労協をはじめ、多くの皆さんのご理解とご協力のおかげであること、③この支援策は2年間の期限付きであり、今後の法改正を含めた支援の確立なしに将来の展望が開けないことなどから、課題解決に向けて今後も取り組むと共に、引き続きご理解とご協力を願いたいと訴えた。

高松事務局長が答弁した後、総会宣言が採択され、最後に住野議長の団結がんばろうで総会を終了した。



### 交運労協「国交省鉄道局と回答交渉」で発言！



10月2日、交運労協は国土交通省共用会議室において、「2019年度政府予算概算要求」の鉄道局（自動車局後）に係わる回答交渉を行った。交渉には、交運労協・高松事務局長をはじめ、政策推進議員懇の国会議員、関係産別の担当者が参加した。

JR総連・淵上法対・調査部長が、①在来線の第4種踏切（遮断機・警報機がない）における死亡事故例を挙げながら、その事故対策について、②国鉄改革のスキームによるJR北海道の経営安定化と地方路線存続に向けた支援措置について要請した。

〔交運労協 FAX ニュース No. 20(10/3)に掲載〕

**交運労協の仲間と共に、政策要求実現に向けて、職場と地域からたたかおう！**